

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo FESTIVAL の一環として、「Tokyo Contemporary Art Award」を実施しています。



「Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023」受賞者決定及び授賞式・シンポジウム開催のお知らせ

「Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)」は、中堅アーティストを対象に、海外での展開も含め、更なる飛躍を促すことを目的に、2018年度から実施している現代美術の賞です。

第3回となる「TCAA2021-2023」では新たに選考委員としてソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ氏、高橋瑞木氏、鷺田めろ氏が加わり計6名の選考委員による審査を経て、2名の受賞者を選出しました。なお、「TCAA2021-2023」の授賞式及びシンポジウムを2021年3月に開催します。

■ 受賞者

志賀理江子



【受賞理由】

制作や現実に対して思慮深く、真摯に向き合う態度と、写真というメディアの性質と人間の精神性との等価性の探求や、写真と身体のあり方を横断する視点といった独自性が評価された。

東日本大震災からの「復興」をとおして近代社会がいかに人々の精神を抑圧してきたかを考えることにより、その制作と思考には、人間の本性、中心と周縁、死と喪、規制と自由、自然との調和、など私たちが生きている社会を考える重要な要素が凝縮されている。

作品をつくることをとおして彼女がこれらと向き合おうとしていることを本アワードが支援することには大きな意義があると考えます。

竹内公太



【受賞理由】

作家は近年の日本の社会的な事象に応答した作品を制作、発表しているように見えるが、記憶を語り継ぐための方法、マテリアルが有するメディアとしての特質、そしてそれらに対する人々の受動性への関心という点においては一貫性が見られ、個人的および集団的記憶の形成やそれに引き起こされる感情的なインパクトの探求に対し深く関わっていかうとする制作態度が評価された。

今回示された遠隔技術の倫理性を問う新提案は、遠隔攻撃の盲目性をも見据えており、デジタルメディアをとおして与えられる情報への私たちの依存性が高まっている現在、その問題意識は日本固有の文脈を超えて、より多くの人々に共有される可能性を強く感じさせられた。

TCAA

Tokyo
Contemporary
Art Award
2021-2023

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、武智、中村

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 選考委員長コメント

今年の選考は、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、移動が大幅に制限されたことで、例年以上に難しいものとなった。選考委員の大半は、実際にアーティストのスタジオに行くことができなかった分、オンライン上でのスタジオ訪問やプレゼンテーションに頼る部分が大きかった。TCAAの素晴らしいチームワークと、アーティストたちの辛抱強さと献身的な努力のおかげで、アーティスト各々の活動について、非常に幅広くそして深く調査することができた。

当初からこの賞に関わってきた選考委員と新たな選考委員とが混在する中、選考前の話し合いや最終選考では、非常に活発で建設的な議論ができた。この賞がこれまでどのような位置付けで、どのように組み立てられてきたのか、また今後どのように進めていくかについて反省点や検討すべき点が見つかったが、選考会では、アーティスト一人ひとりについて丁寧に議論することができ、それぞれの意見を互いに思う存分伝え合うことができたと思う。その結果、じっくりと十分な議論を重ねた上での最終決定となった。

今、グローバル化は難題となり再検討される過酷な時期を迎えている。その中でも、TCAAはアーティストがより大きなアートの世界のさまざまな場面に少しでも多くつながることができるように、最大限の努力を続けている。更なる成長を目指して活動をしているアーティストたちを支援するこの賞は、近い将来きっと実を結ぶだろう。選考委員として、前向きで未来を見据えたこのような素晴らしい取り組みに参加できたことを、大変光栄に思う。

キャロル・インハ・ルー（北京インサイドアウト美術館 ディレクター）

■ 授賞式及び受賞記念シンポジウム

■ 授賞式

開催日：2021年3月19日（金）10:30-11:00

会場：東京都現代美術館 地下2階講堂（江東区三好4-1-1）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、申込はプレス関係者及び招待者のみとさせていただきます。

※オンラインでの配信も予定しています。（オンライン配信のみ日英同時通訳あり）

■ 受賞記念シンポジウム ※入場無料・要事前申込・先着順/日英同時通訳あり

開催日：2021年3月21日（日）14:00-15:30（開場 13:30）

会場：東京都現代美術館 地下2階講堂

※オンラインでの配信も予定しています。

※登壇者やシンポジウムの内容についての詳細は後日 TCAA ウェブサイトにて公開いたします。

< 受賞記念シンポジウム申込方法 >

TCAA ウェブサイト内申込フォームより、3月10日（水）までにお申込みください。

申込フォーム：<https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/form/>

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更等が生じる場合があります。

TCAA2021-2023 受賞者

志賀理江子 | SHIGA Lieko

1980年愛知県生まれ、宮城県在住。

2004年ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン卒業。

「安全・清潔・便利な住環境に育った私とカメラ機器の親和性は、その暴力性において極めて高かった」と述べる志賀は、写真の時空が「死」よりも深い救いと興奮を自らに与えたとも言う。2008年から宮城県に移り住み、その地に暮らす人々と出会いながら、人間社会と自然の関わり、死の想像力から生を思考すること、何代にも遡る記憶などを題材に制作を続ける。2011年、東日本大震災での沿岸部における社会機能喪失や、厳格な自然法則という体験は、その後、戦後日本のデジャヴュのような「復興」に圧倒されるという経験に結びつき、人間精神の根源を、様々な制作によって追及しようとした。過去と未来が断ち切られた「永遠の現在」と呼ばれる時空間を、写真のメディア性に置き換え可視化することを意識する作品は、鑑賞者が己の身体と意識を、イメージによる鏡に写し見るような写真空間である。

近年の主な展覧会に、個展「ヒューマン・スプリング」（東京都写真美術館、2019）、「ビルディング・ロマンス—現代譚（ばなし）を紡ぐ」（豊田市美術館、愛知、2018）、個展「ブラインドデート」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川、2017）、個展「カナリア」（Foam写真美術館、アムステルダム、2013）など。

受賞歴に「第33回木村伊兵衛写真賞」（2007）、「ICPインフィニティアワード」新人賞（2009）など。



1. 《人間の春・昨日と変わらない今日、今日と変わらない明日》2019、Cタイププリント
「ヒューマン・スプリング」（東京都写真美術館、2019）



2. 《螺旋海岸 31》2010、Cタイププリント
「螺旋海岸」（せんだいメディアテーク 6F、2012-2013）

竹内公太 | TAKEUCHI Kota

1982年兵庫県生まれ、福島県在住。

2008年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。

パラレルな身体と憑依をテーマに、時間的・空間的隔たりを越えた活動を展開する。

時間的な隔たりを越えて…第二次世界大戦中に使用された風船爆弾の行方を追う空撮、郷土史家が撮影した石碑写真の再現、19世紀建造の映画館の解体映像。

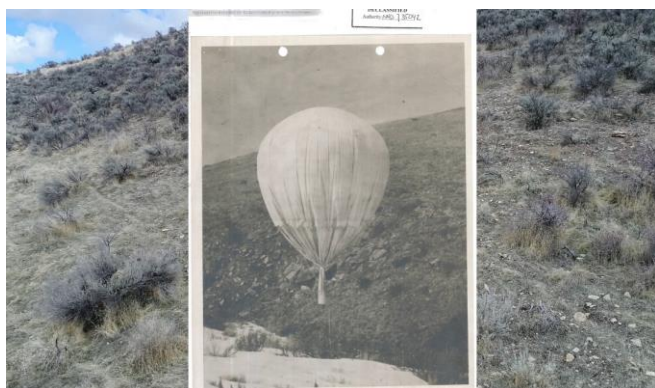
空間的な隔たりを越えて…2011年に日本で起きた原発事故に伴う立入制限区域で警備員が制作したフォント、避難者の自宅に残された服を着る写真。建築物、石碑、彫刻、公文書、郷土史家や目撃者のインタビューといった人々の記憶に触れつつ、インターネット地図アプリ、ライブストリーミング映像、ドローンカメラなどの現代的な手段でイメージを追う。

メディアと人間との関係を探りながら、作者自身と鑑賞者の疑似的な共有経験を提供する。

近年の主な展覧会に、個展「Body is not Antibody」(SNOW Contemporary、東京、2020)、「第6回アジア・アート・ビエンナーレ」(国立台湾美術館、台中、台湾、2017)、個展「メモリー・バグ」(Arts Catalyst、ロンドン、2016)など。指差し作業員の代理人として、「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」(東京都現代美術館、2019)、「GLOBALE:GLOBAL CONTROL AND CENSORSHIP」(ZKM、カールスルーエ、ドイツ、2015)など。

受賞歴に「群馬青年ビエンナーレ 2010」奨励賞。

※指差し作業員は、2011年東京電力福島第一原発のライブカメラを指差した人物。竹内は彼の代理人として作品の編集、展示を代行している。



3. 《盲目の爆弾、コウモリの方法》
2019-2020、映像、32分



4. 《文書1: 王冠と身体》
2020、インスタレーション、紙にレーザープリント

過去の TCAA 受賞者

【第1回(TCAA 2019-2021)受賞者】

風間サチコ
下道基行

【第2回(TCAA 2020-2022)受賞者】

藤井 光
山城知佳子

2021年3月20日からは第1回 TCAA 受賞者の風間サチコと下道基行による、「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021 受賞記念展」を東京都現代美術館にて開催します。

詳細は TCAA ウェブサイトよりご覧ください。

■ 本賞の概要

Tokyo Contemporary Art Award (TCAA) は、2018年に東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペースによって創設された、海外での展開も含め、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる国内の中堅アーティストを対象とした新たな現代美術の賞です。

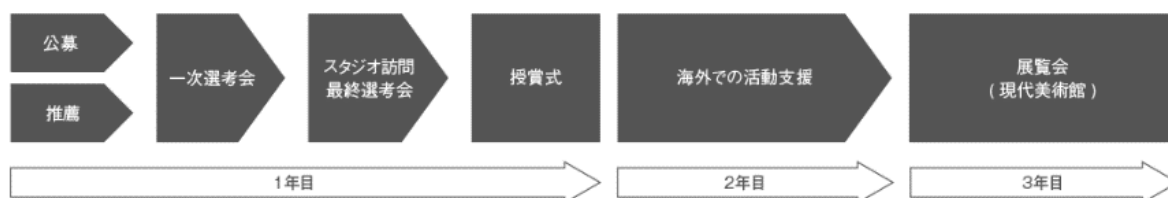
アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視し、受賞者の選考は、選考委員によるアーティストのリサーチやスタジオ訪問により、制作の背景や作品表現、キャリアステージへの理解を深めた上で行われます。

受賞者に対しては、海外での活動支援のほか、東京都現代美術館での展覧会およびモノグラフ（日英）の作成など、2年間に渡る継続的な支援を行います。

【受賞者支援内容】

- 1) 賞金 300 万円
- 2) 海外での制作活動支援上限 100 万円（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- 3) 展覧会実施（東京都現代美術館での展示/2022 年度末予定）
- 4) モノグラフ（作品集）の作成（上記 3）の展示にあわせて制作/2022 年度末予定）

【スケジュール】



■ TCAA2021-2023 について

【選考委員】

ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ（ヴィッテ・デ・ヴィット現代美術センター（旧称） ディレクター）

住友文彦（アーツ前橋 館長／東京藝術大学大学院 准教授）

高橋瑞木（CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) エグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター）

キャロル・インハ・ルー（北京インサイドアウト美術館 ディレクター）

鷲田めるろ（十和田市現代美術館 館長）

近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター

（公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長）

【選考方法】

2020年6月に公募を行い、選考委員に公募者を含む候補アーティストの推薦を依頼、議論によりノミネートアーティストを選出。その後、各アーティストの事前調査、スタジオ訪問や面接など、直接対話による審査を経て、2名の受賞者を決定しました。

「Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023」

受賞者決定のお知らせ

広報用画像申込書

Fax 番号: **03-5245-1154**

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 TCAA 2021-2023 ロゴマーク ポートレート

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

広報担当: 市川、武智、中村

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp